

生徒を取り巻く交通環境と課題

平成23年12月

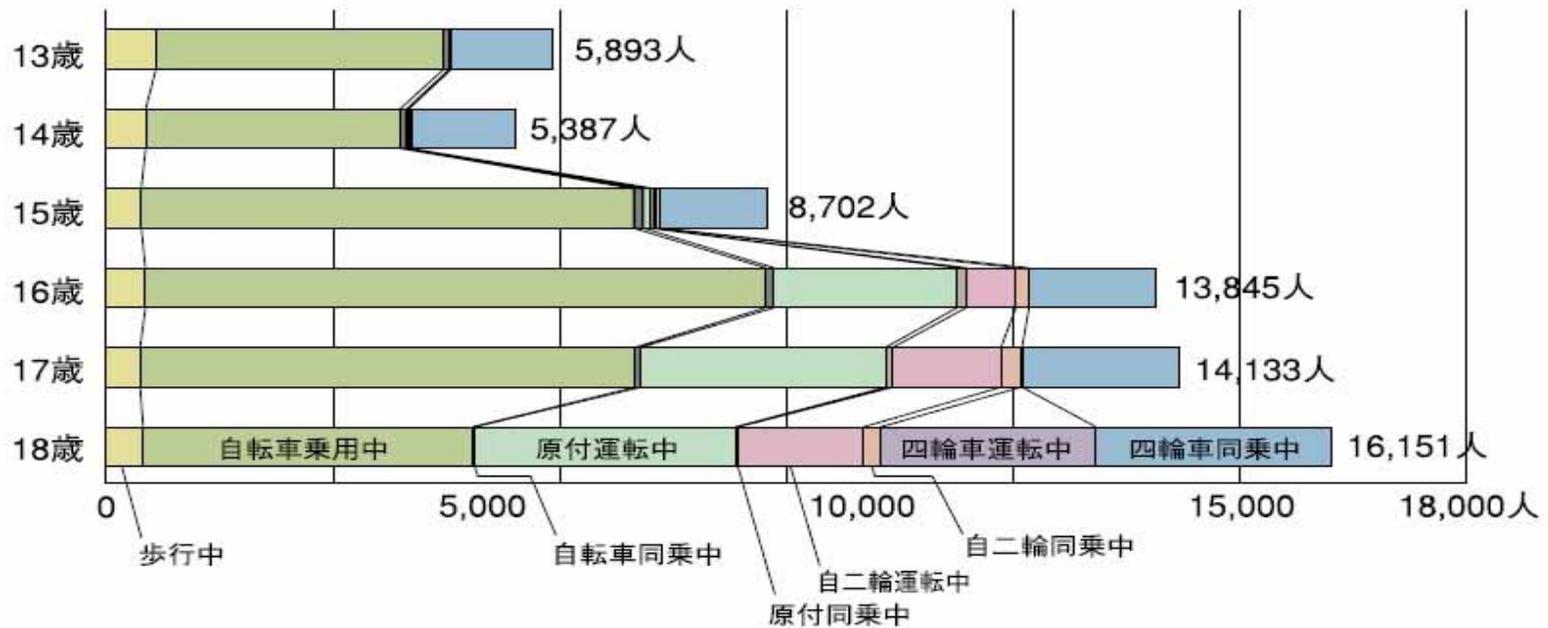
(財)日本交通安全教育普及協会

22年度鹿児島市立学校における交通事故発生状況

	学 年	歩 行 者 死傷者数(比 率)	自 転 車 死傷者数(比 率)	計 死傷者数(比 率)
小 学 校	1年生	12 (37.5%)		12 (29.3%)
	2年生	7 (21.9%)	2 (22.2%)	9 (22.0%)
	3年生	4 (12.5%)	1 (12.2%)	5 (12.2%)
	4年生	3 (9.4%)	4 (44.4%)	7 (17.1%)
	5年生	4 (12.5%)	2 (22.2%)	6 (14.6%)
	6年生	2 (6.3%)		2 (4.9%)
	計	32 (78.0%)	9 (22.0%)	41 (100%)
中 学 校	1年生	2 (28.6%)	1 (20.0%)	3 (25.0%)
	2年生	4 (57.1%)	2 (20.0%)	6 (50.0%)
	3年生	1 (14.3%)	2 (40.0%)	3 (25.0%)
	計	7 (58.3%)	5 (41.7%)	12 (100%)
高 校	2年生		1 (100%)	1(100%)

年齢別・状態別死傷者数

年齢別・状態別死傷者数



(財) 交通事故総合分析センター (平成 20 年)

H22年全国高校生事故傾向

原付自転車

通学中の事故発生率は
20.1%とほぼ横ばい

1当比率は41.1%とやや
低くなった

・人的要因では**安全不確認**
が**21.1%**と最多

通学以外の**47.2%**は**安**
全不確認・動静不注視・漫
然運転・脇見運転の違反

事故の**83.1%**は**違反あり**

2当の**28.7%**は**違反なし**

自転車

通学中の事故発生率は
62.9%とやや高くなった

1当比率は**18.1%**とやや
高くなった

・人的要因では**安全不確認**
が**64.8%**と最多(前年比3.8%増)

その**37.0%**は**信号無視・**
一時不停止の違反(↑)

事故の**70.6%**は**違反あり**
(↑)

2当の**35.9%**は**違反なし**

通学路での交通事故は学校管理下

自転車の交通指導取締り状況

	無灯火	二人乗り	信号無視	歩道通行者に危険を及ぼす違反
平成22年	656,320	475,025	137,118	201,225
その他	指導警告票 交付件数	対前年比	赤切符 交付件数	対前年比
653,093 (前年比101.5%)	2,122,781	98.0%	2,403 信号無視 遮断踏切立入 乗車・積載違反	181.2%

自転車事故の課題

1. **自転車乗用中事故の傾向** <2007年頭部外傷データバンクより>
 - ・負傷者171,178人(全負傷者の16.5%)
 - (* **自転車重傷者**は全重傷者数の**20.8%**を占める)
2. **自転車乗用中の事故**
 - ・小学生 交通事故受傷者の**66%**
 - ・中学生 " **67%**
 - ・高校生 " **62%**
3. **自転車事故による重傷頭部外傷の特徴** (救急外来149人の分析)
 - ・男性:**60.4%** 女性:**39.6%** ・**頭部単独損傷** 受傷者の**34.9%**
 - ・**意識清明期**の有無 **約2割**(他の事故の倍)
 - ・**頭部外傷**の転帰 **死亡 40%** **予後良好・軽度の障害 37%**
 重度障害・植物状態等の予後不良 23%

死亡原因の67.2%が頭部外傷 頭部打撲は専門医の精密検査が必要

状態別死者数の変化 (16~19歳)

	24時間以内	30日以内	増加率
自動車乗車中	75	80	106.6%
原付乗車中	39	51	130.8%
自転車乗用中	16	32	200.0%
合計	130	163	125.4%

自転車は**頭部損傷**で72.1%、**胸部損傷**で8.8%が死亡。(H22年全年齢)

原付の3割は**ヘルメット脱落による頭部損傷**で死亡(H22年全年齢)

自転車事故ヘルメット着用調査

・埼玉医科大学国際医療センター発表(平成23年10月8日)

・対象:平成17年4月～22年12月(5年間)15歳・中学3年までの自転車乗用中に事故に遭い、病院で診察を受けた**子供172人**

<内訳>

・頭部に怪我をした人 **109人**(全体の63%)

うち**重症27人**(上記の24,8%)

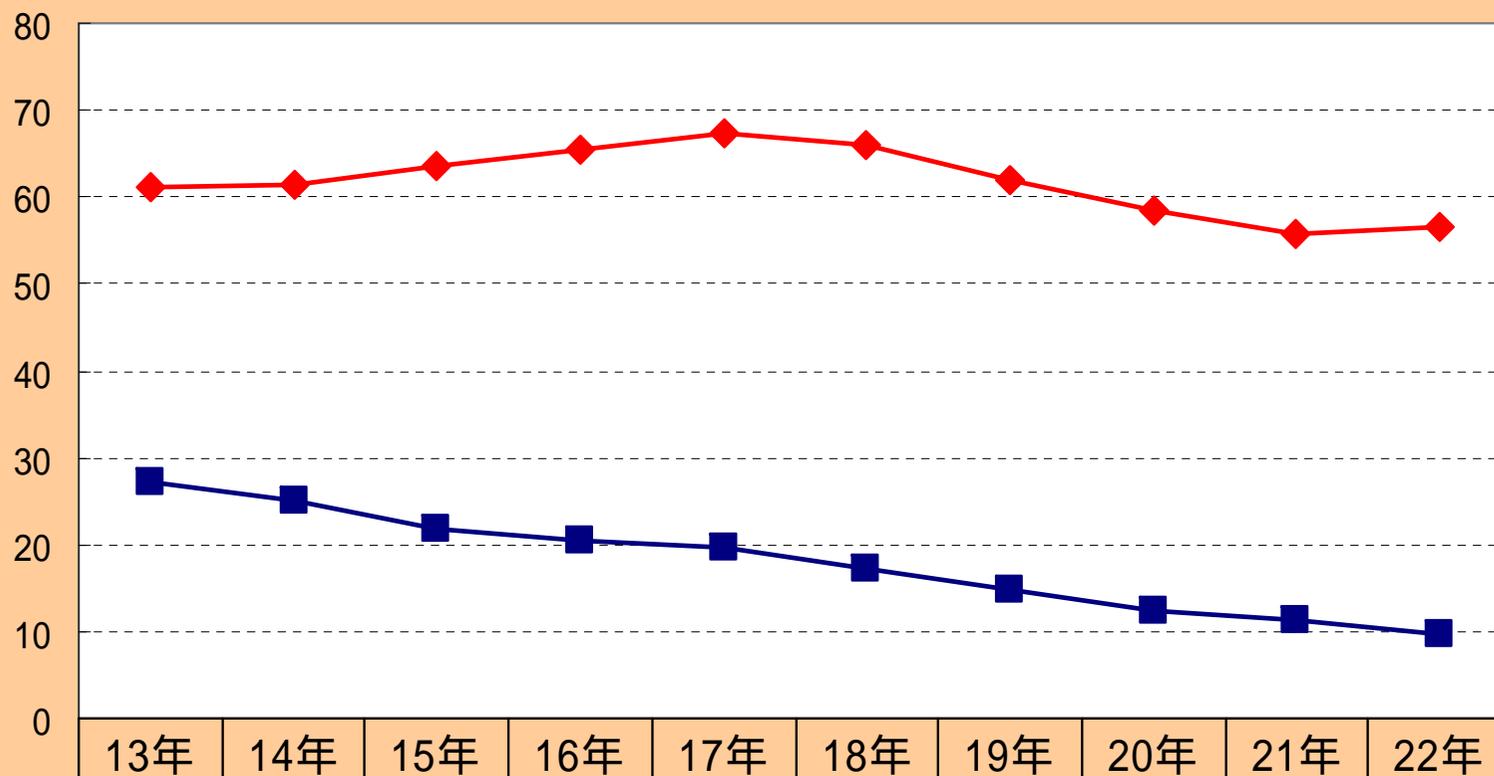
脳挫傷や脳内出血で治るまで数ヶ月掛かったケースもあったほか、落ち着きが悪くなったり、物覚えが悪くなったりして、後遺症が疑われるケースもあった。

<提言>

・重症の中にはヘルメットを被っていたら、軽く済んだと思われるケースも あった
そうで、子供にはヘルメットを被らせてほしいとセンターは要望しています。

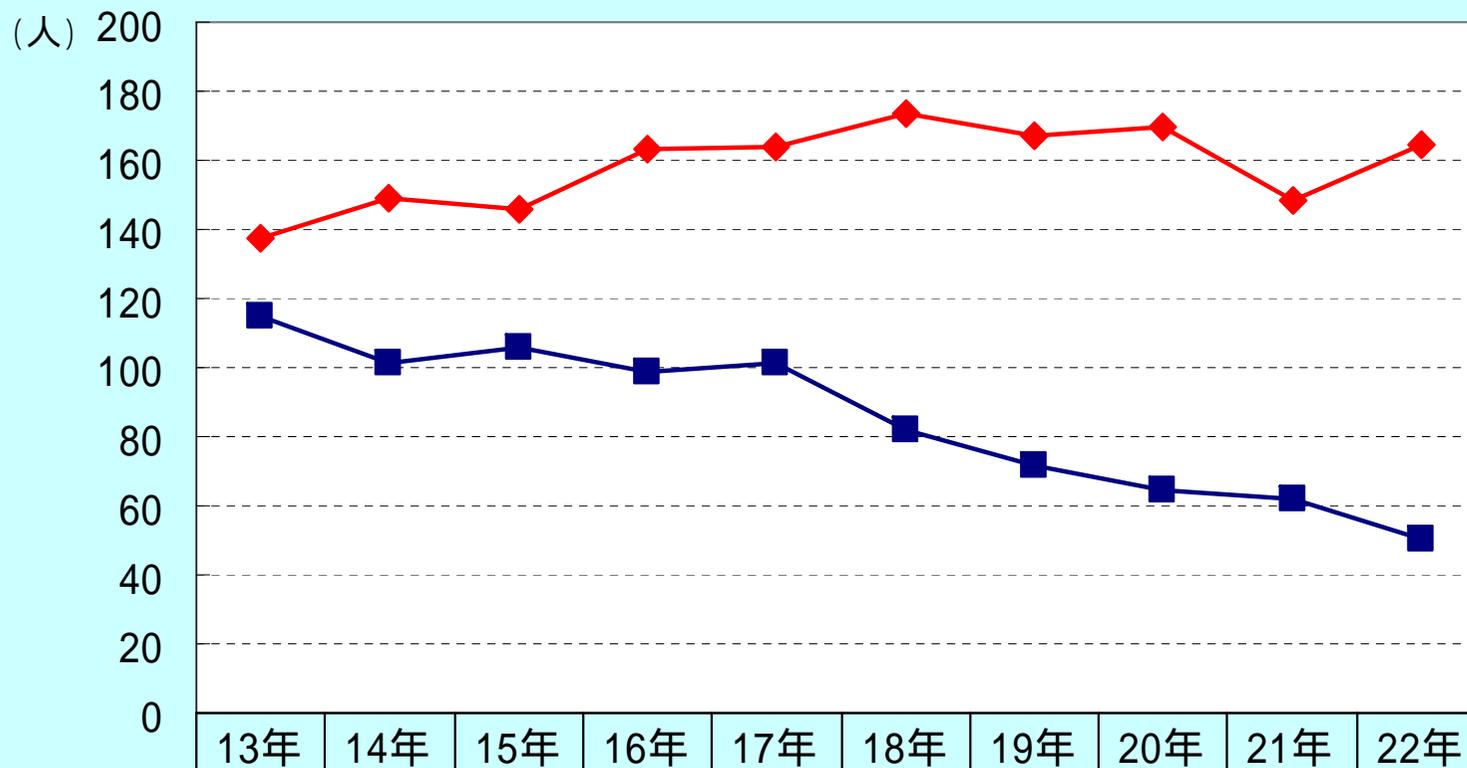
高校生1万人当たりの自転車乗用中・原付乗車中の死傷者数（全国）

(人)



◆ 自転車	61.05	61.34	63.5	65.4	67.36	65.87	61.89	58.51	55.74	56.56
■ 原付	27.09	24.97	21.78	20.44	19.53	17.14	14.75	12.4	11.24	9.80

高校生1万人当たりの自転車乗用中・原付乗車中の死傷者数（ワースト比較）



◆ A都道府県 (自転車)	137.5	148.9	145.8	163	164	173.4	167.1	169.7	148.5	164.6
■ B都道府県 (原付)	114.9	101.6	105.6	98.65	101.1	81.68	71.7	64.78	61.64	50.57

ある高校の交通安全活動実績

< 通学中の交通事故年度別発生率推移 >

	平成17年	18年	19年	20年 (各1学期末)
1年生	11.8%	10.2%	3.4%	3.3%
(ヒヤリ体験率)	(45.4%)	(53.1%)	(44.8%)	(35.9%)
2年生	6.7%	6.7%	4.2%	2.8%
3年生	6.8%	6.7%	4.2%	4.4%
< 入学式 >	挨拶(会長は安全講話) + 交通安全テキスト配布(自習 & 記述方式)			
校長	3分	3分	1分	1分
P会長	3分	3分	5分	5分

注1. ヒヤリハット体験は危険の要因まで把握することで、生徒自身の安全意識の高揚を図った

2. クラス単位での集計を続けると変化が分かり、生徒指導のヒントを得ることができた

3. 生徒は納得さえすれば、実行力向上ができることが裏付けられた

(傘差してヒヤリとした一年生: 平成17年: 39.5% 20年: 12.4%まで低下)

自分の命は自分で守るために

1. 目 配 り

2. 気 配 り

3. 心 配 り

* 3配りの習慣化で交通リスクを減らす

交通安全教育のあるべき姿

1. 自主自立できる人づくり
2. 責任ある行動ができる人づくり
3. 考えて安全行動のできる人づくり

良識ある交通社会人の育成